

近時財政經濟ニ関スル國狀ヲ觀
察スルニ曠古大事件ノ後ヲ承ケ財政
ノ整理未ク完カラス内外共ニ不安ノ念
ヲ懷キ一般經濟亦其影響ヲ蒙リ
蓋シ財政ノ實狀ヲ精査スルニ確定歳入ハ
以テ確定歳出ニ應スルニ足ラス之ヲ補フ
ニ巨額ノ公債ヲ以テセサルヘカラス其額ハ
四十一年度ヨリ四十六年度迄通計約二
億四千餘万円ニ上ルヘシ戦前凡ソ五億五

財政經濟之現狀

財政經濟ニ関スル國狀ヲ觀
 曠古大事件、後々承テ財政
 ヲ完カラス内外共ニ不安、急
 般經濟亦其影響ヲ蒙リ
 、實狀ヲ精査スルニ確定歳入
 歳出ニ應スルニ足ラス之ヲ補フ
 公債ヲ以テセサルハカラス其額ハ
 度々四十六年度迄通計約二
 万圓ニ上ルヘシ戦前凡ソ五億五

十億圓

一

二

一、健康費増進ニ関シ

年割額等、通用上、細目、付テ、各省主務者ヲ
 ヲ協定セシムルコト

二、保健費増進ニ関シ

在、約五千萬円ト定ムルコト但シ通用上、細目、
 ヲ各省主務者ヲシテ協定セシムルコト

三、保健費増進ニ関シ

度新規要求ハ一層緊縮ヲ旨トスルコト

千万圓ニ止マリタル公債ハ戦後一躍シテ
二十二億餘圓ニ上リ加フルニ鐵道買収公債
約四億五千万圓ノ發行目前ニ迫ルアリ内
外不安ノ念ヲ懷キ公債ノ價格低落シ
内外ノ資本主皆我證券ニ投資スルヲ
好マサルニ至リタルハ寧ニ當然ノ結果ト
云ハサルヘカラス為メニ財源常ニ足ラス
毎歲年度未タ半ハナラスニテ事業施
行ノ延期ヲ議セサルヲ得サルニ至レリ財政ノ
状況此ノ如キハ國家ノ品位信用ヲ高クスル

所以ニアラス今ニ及テ斷然出入ヲ整頓シ
以テ速ニ財政ノ基礎ヲ確立スルニアラスニ
ハ國家ノ進運方ニ不測ノ阻礙ヲ蒙ラン
トス

獨リ確定歲入ノ以テ確定歲出ニ當ルニ足
ラサルノミナラス現在ニ於ケル事業能力
ハ毎年ノ施業計畫ト相伴ハス四十年以
後數年間ノ政府事業費ハ毎年一億圓
ヲ上下シ其多キハ一ヶ年一億七千餘萬圓
ニ達スルコトアリテ戦前ニ比シ常ニ三倍以上

ニ在リ民間企業ノ状況亦畧ホ之ニ類ス材
料不足ニ勞力不足ニ資金亦不足ニ我
事業能力ノ以テ此等事業計畫施行
ニ應スルニ足ラサルハ當然ナリ強テ之ヲ施
行セシカ事業費ノ増加トナリ通貨ノ膨
脹トナリ正貨ノ減少トナル毎年ノ事業計
畫完全ニ遂行セラレ得ヘカサルコト瞭然
タリ之ヲ整理シテ其適度ヲ得セシムルハ
財政經濟上最モ必要ナリトス
公債急激ニ増加シテ未タ其歸所ヲ得ヤ

ルモノ少カラズ此ノ際新公債ノ發行ハ勉
メテ避クルヲ要スルノミナラズ鐵道買収公
債ノ發行ハ久シク遷延ヲ許サルヲ以テ公
債償還資金ノ適度ニ増加シ償還計
畫ヲ確立シ以テ公債ノ信用ヲ高メ將來
伸張ノ基礎ヲ定ムルコト極メテ必要ナリ
トス

鐵道經營ノ方法ヲ確立スルハ今日ノ急務
ナリ現行特別會計ハ唯出納ヲ別ニスルコ
ト云フニ過ヤス一般會計ノ一部ヲ成スニ外ナ

ヲサルヲ以テ一般財政ト鐵道經營ト
ハ互ニ累ヲナシ財政ハ為メニ常ニ困
厄ヲ蒙ムルト同時ニ鐵道ノ經營亦常
ニ支障ヲ免ル、能ハス故ニ國有鐵道
ヲ以テ一團トナシ獨立ノ經營ヲ立テ
シメ以テ双方各々其宜ヲ得セシメント
ス
以上ノ方針ニ基キ今後ノ財政計畫ヲ
大體左ノ如ク定メントス

第一 歲入 歲出

甲、確定歲出ニ對シテハ確定歲入
ヲ以テ之ニ應セシムルコト、シ新
公債ノ發行ハ當分之ヲ廢止スル
コト但既定ノ臺灣事業公債ハ
例外トス

乙、四十二年度以降ニ於ケル歲入出ノ
計算ハ總テ現在ニ於ケル既定ノモ
ノニ依ルコト、シ將來自然ニ増加ス
ヘキ歲入ハ之ヲ以テ歲出ノ増加ニ應
セシムルモノトシ孰レモ之ヲ見積ラ

サルト

丙、四十二年度以降當分ノ内後段第

二項公債償還計畫ニ定メタル公

債償還額ニ達スル迄國債整理基

金特別會計繰入額ヲ増加スルト

丁、以上諸項實行ノ為メ左ノ方法ヲ

執ルト

(イ) 歳出ノ新規増加ハ勉メテ之ヲ避ク

ルト

(ロ) 各省行政費中約一千万圓ヲ節減

スルト

(ハ) 既定繼續費ノ年割ヲ別表ノ通
リ改定スルト

(ニ) 四十一年度事業費繰延額及臨
時軍事費ハ別表ノ如ク各年度
ニ分配使用スルト

第二 公債償還計畫

甲、公債ノ償還高ハ毎年五千万圓以
上トスルト

乙、鐵道ニ関スル公債ハ三十五年

間ニ償却スルコト、ニ鐵道特別會計ヲシテ毎年度其年賦金額ニ相當スル金額ヲ國債整理基金特別會計ヘ繰入セシムルコト

第三 鐵道經營

鐵道ハ左記條件ヲ基礎トシ獨立ノ經營ヲ立テシムルコト

甲、鐵道益金ハ鐵道特別會計ヨリ一般會計ニ繰入セサルコト、ニ

特別會計ニ於テ鐵道關係ノ公債又ハ債務ノ元利仕拂金又ハ鐵道ノ建設改良費ニ充テシムルコト

乙、鐵道ノ經營ハ本會計獨立自營ノモノトシ一般會計ヨリハ資金ヲ繰入セス

丙、將來發行スヘキ鐵道公債ノ總額ハ鐵道建設及改良既定豫算總額以内トスルコト

ト

丁、鐵道經營上必要ノ事業ヲ遂行スル為財源不足ナルトキハ鐵道公債ヲ募集シ又ハ借入金ヲ為シ之ヲ補充スルコト

戊、鐵道公債及借入金ニ関スル事務ハ大藏省ヲ主管トシ其ノ資金ハ國債整理基金ト同一ノ取扱ヲナスコト

己、鐵道運輸其他一切ノ經營方針ヲ一層營業的ニスル為規則ノ改正其他適當ナル方法ヲ採ルコト

庚、鐵道ノ經營ハ其實績ヲ舉ケ收益ノ増加ヲ圖ル為努メテ既定線ノ改良ヲ先ニシ新設工事ヲ後ニスルコト但新設線ハ成ルヘク有利ノ線ヨリ順次着手スルコト

辛、鐵道附屬事業ヲ整理シ民間經營トシ差支ナキモノハ民業ニ移ス

ノ方法ヲ講スルコト

第四 附屬諸件

甲、豫算編制後ニ於ケル追加豫算ハ
天災事變又ハ豫期ニ難キ義務
ノ生シタル場合ノ外之ヲ要求セサ
ルノ方針ヲ取ルコト

乙、歳出豫算ノ徒ラニ膨脹スルヲ避
クルノ目的ヲ以テ時機ヲ見計シ豫
算ノ款項ヲ適度ニ整理スルコト

丙、官業ニ屬スル事業中 民業ニ移

シ得ヘキモノ又ハ移スヲ便利トスル
モノハ漸次民業ニ移スノ方針ヲ
執ルコト

以上ノ計畫ヲ實行スルヲ得ハ戦後財政ノ
整理茲ニ初メテ完結シ將來ノ基礎亦確
定シ財政經濟ノ發達數年ヲ出テスニテ
期スルコトヲ得ヘシ夫レ戦役ハ秩序ヲ破壊
シ人心ヲ激越シ有形無形共ニ常軌ヲ失ハシ
タルモノナリ戦後未タ數年ナラスニテ之ヲ
收束シ之ヲ整理シ以テ常態ニ復セシメン

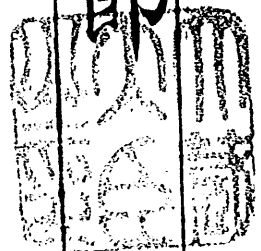
トスルハ事固ヨリ至難ノ業ニ屬ス然レトモ
一年ヲ緩フスレハ則國運ノ伸張不測ノ害
ヲ蒙ムルヘシ本大臣ハ我閣僚ノ克ク此趣
旨ヲ体シ同心協力以テ斯整理事業
ヲ完成セラレシコトヲ切望ス
此計畫ニシテ實行セラル、ヲ得ハ公債信
用ノ鞏固ハ期シ得ヘキヲ以テ四十二年
リ鐵道買收公債ヲ發行シ以テ舊株主
等ノ蒙リマアル利益ノ障害ヲ除キ并ニ
一般ノ懷ケル不安ノ念ヲ消散セシムヘシ

其發行ノ時期及方法ハ別ニ閣議ノ
決定ヲ求ムヘシ

右閣議ニ提出ス

明治四十一年八月二十八日

大藏大臣侯爵桂太郎



内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

丹
藏
書

明治四十二年度以降歳入歳出概計表

(未定案)

△印不足

[illegible]

[illegible]

明治四十二年度以降既定繼續費年割額改定調(未定案)				
年度區分	既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年度	七五七七、二二八	一三、六四七、九六〇	。	六二、二九、二六八
四十三年度	六〇、〇六二、六三三	一三、二七六、六六〇	四三八一、〇二	五、一六六、九六五
四十四年度	八四、八四八、八六七	三三八八二、五五八	。	六、九六六、三〇九
四十五年度	六七、二三九、二一七	一八九二八、六七八	一八〇、〇〇〇	四八、四九〇、五九九
四十六年度	五七、〇三〇、六三六	一一、〇七二、三三七	一三七八、九四六	四七、三三七、二四五
四十七年度	四六、八〇四、七九四	一二、六〇三、〇七	一三、九九六、三七〇	四六、一九八、一五七
四十八年度	三三、二七一、七九九	。	一九、三九、五三五	五一、三一、三三四
四十九年度	五四、五、六七七	。	二七、六四九、一二九	三三、五四七、八六
五十年度	五、二七、六二一	。	一四、四七、五七五	一九、七五、一九六
五十一年度	一九八三、九一二	。	一四、九一八、一二	一六、九、一九二
五十二年度	一九八三、九一二	。	一四、五二、九八三	一六、三六、八九五

計

四三、四三六、二六六

一〇、三〇一、二〇〇

一、八六四、三三三

四四、二六六、八六八

備考

繰戻合計額、繰延合計額、超過する陸軍省所管に於
て四十二年度、繰延、對する繰戻、に包含する、依り又右金額、
當該年度に於て改定年割額中より除算せらるべきナリ

外務省所管		年度	
		區分	
		既定年割額	繰延額
		繰戻額	改定年割額
四十二年度		七五、〇〇〇	二五、〇〇〇
四十三年度		七五、〇〇〇	二五、〇〇〇
計		七五、〇〇〇	二五、〇〇〇

内務省所管

年度 區分 既定年割額 繰延額 繰戻額 改定年割額

四十二年度 六、二二〇、二五四 一、七二二、二五四 三、四〇〇、〇〇〇 三、四〇〇、〇〇〇

四十三年度 四、七九四、三三四 二、九四四、三三四 一、八五〇、〇〇〇 一、八五〇、〇〇〇

四十四年度 六、二四四、〇七二 三、〇七四、〇七二 三、一七〇、〇〇〇 三、一七〇、〇〇〇

四十五年度 六、二九一、七七二 二、三九一、七七二 三、九〇〇、〇〇〇 三、九〇〇、〇〇〇

四十六年度 六、八八六、一八〇 八、八八六、一八〇 五、〇〇〇、〇〇〇 五、〇〇〇、〇〇〇

四十七年度 四、五六一、七八〇 九、六一七、七八〇 三、六〇〇、〇〇〇 三、六〇〇、〇〇〇

四十八年度 四、三〇一、五六八 〇 四、六〇一、五六八 四、六〇一、五六八

四十九年度 三、四八九、一七六 〇 二、八四〇、〇〇〇 六、三三九、一七六

五十年度 三、三二七、二八二 〇 二、五八〇、〇〇〇 四、八九七、二八二

五十一年度 一、九八三、九一二 〇 三、〇〇〇、〇〇〇 四、九八三、九一二

五十二年度 一、九八三、九一二 〇 三、三三八、三九二 五、二四二、三〇四

計

四六九七四、三四二

一一九七八、三九二

一一九七八、三九二

四六九七四、三四二

大藏省所管

年度 區分

既定年割額

繰延額

繰戻額

改定年割額

四十二年度

五、六〇〇、五七四

一九〇〇、五七四

〇

五、七〇〇、〇〇〇

四十三年度

五、一三三、二〇四

五、〇八三、二〇四

〇

五、一三三、二〇四

四十四年度

四、七〇〇、〇〇〇

二、三二〇、〇〇〇

〇

二、三八〇、〇〇〇

四十五年度

四、六四〇、〇七三

一、七四〇、〇七三

〇

二、九〇〇、〇〇〇

四十六年度

三、七〇〇、〇〇〇

九〇〇、〇〇〇

〇

三、〇〇〇、〇〇〇

四十七年度

五、二六六、五〇〇

一、一六六、五〇〇

〇

四、一〇〇、〇〇〇

四十八年度

九、九三六、八五四

〇

三、〇〇〇、〇〇〇

一、二九三、八五四

四十九年度

〇

〇

二、五五〇、〇〇〇

二、五五〇、〇〇〇

五十年度

〇

〇

二、三〇〇、〇〇〇

二、三〇〇、〇〇〇

五十一年度

〇

〇

二、六五〇、〇〇〇

二、六五〇、〇〇〇

五十二年度

〇

〇

三、一〇〇、三五八

三、一〇〇、三五八

計

二九、九一四、二〇五

一〇、九一〇、三五五

一〇、九一〇、三五五

二九、九一四、二〇五

陸軍省所管

年度	区分	既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年	度	二、四八二、二四五	六六、七五七	〇	一四、八七四、六七三
四十三年	度	四、九三三、七六一	〇	四、三五六、〇〇二	九、二八九、七六三
四十四年	度	三、一三二、四七四	一八、五一九、一四六	〇	一三、六一七、三三八
四十五年	度	一、五〇六、八八四	五四、七四、九	〇	九、五九二、七九四
四十六年	度	一、一四七、七一五	〇	一三八、九四六	一一、二七六、六六一
四十七年	度	七、〇二一、五一四	三六五、七六三	〇	六、六五五、七五一
四十八年	度	二、一九六、一一九	〇	四、五八九、八六九	六、七八五、九八八
四十九年	度	一、九一六、四八一	〇	六、六四六、五五二	八、五六二、〇三三
五十年	度	二、七一〇、三三九	〇	六、六一七、〇四一	九、三二七、三八〇
五十一年	度	〇	〇	六、九六一、八三八	六、九六一、八三八
五十二年	度	〇	〇	六、八九五、六七五	六、八九五、六七五

計

九八、六〇七、五五二

五〇、九六六、五七一

三六、一九四、九三三

一〇五、八三九、八八四

備考

繰戻合計額、繰延合計額に超過スル四十一年度繰延額に對スル繰戻、
包含スルニ依ル又右金額ハ當該年度に於テ改定年割額中ヨリ除算セ
テ凡ハキモノナリ

海軍省所管

年度	既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年度	三六、四二四、五九五	一、〇〇〇、〇〇〇	。	三五、四二四、五九五
四十三年度	三七、八一八、八〇四	二、六二六、六〇二	。	三五、二〇二、二〇二
四十四年度	三六、二一九、九六六	七、三二〇、一一五	。	二八、九八八、九八一
四十五年度	三六、〇五〇、九八四	七、三三三、二三九	。	二八、六九七、七四五
四十六年度	三六、一五一、二七七	九、四七〇、六九三	。	二六、六八八、五八四
四十七年度	二八、九五五、〇〇〇	一、〇一八、九六四	一、六一六、三七〇	三〇、四六二、四〇六
四十八年度	二四、七八〇、二五八	。	一、三四九、六六六	三八、二二九、九二四
四十九年度	。	。	一、二七〇、三、五七七	一、二七〇、三、五七七
五十年度	。	。	。	。
五十一年度	。	。	。	。
五十二年度	。	。	。	。

計

三三六、四〇〇、一四
三六、七六九、六一三
三六、七六九、六一三
三三六、四〇〇、一四

年度	司法省所管			
	區分	既定年割額	繰延額	繰戻額
四十二年度		二二一、六〇。	七、一六〇。	一五〇、〇〇〇。
四十三年度		二〇五、六〇。	一三、五六〇。	八〇、〇〇〇。
四十四年度		一三八、三〇。	六八、三〇。	七〇、〇〇〇。
四十五年度		一一四、一二。	四四、一二。	七〇、〇〇〇。
四十六年度				七〇、〇〇〇。
四十七年度				七〇、〇〇〇。
四十八年度				四〇、〇〇〇。
四十九年度				八〇、〇〇〇。
五十年度				四九、六二。
計		六七九、六二。	三〇九、六二。	六七九、六二。

文部省所管		年度	區分
既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年度	一、〇二二、八三三	三、四二二、八三三	六八〇、〇〇〇
四十三年度	八二五、一二三	五二五、一二三	三〇〇、〇〇〇
四十四年度	三六二、九五八	一八二、九五八	一八〇、〇〇〇
四十五年度	。	。	一八〇、〇〇〇
四十六年度	。	。	一八〇、〇〇〇
四十七年度	。	。	一八〇、〇〇〇
四十八年度	。	。	六〇、〇〇〇
四十九年度	。	。	二六〇、〇〇〇
五十年度	。	。	一九〇、九一四
計	二、三一〇、九一四	一、〇五〇、九一四	二、三一〇、九一四

8

農商務省所管

年度	既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年度	六二八、七〇七	七八七、七〇	〃	一五〇、〇〇〇
四十三年度	六九三、八六八	六八〇、八六八	〃	一一三、〇〇〇
四十四年度	六五五、九六七	七七六、九六七	〃	七八〇、〇〇〇
四十五年度	六七五、三八四	四二五、三八四	〃	六五〇、〇〇〇
四十六年度	一四四、四六四	一五、四六四	〃	一三〇、〇〇〇
四十七年度	〃	〃	一三〇、〇〇〇	一三〇、〇〇〇
四十八年度	〃	〃	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
四十九年度	〃	〃	九五、〇〇〇	九五、〇〇〇
五十年度	〃	〃	八四、〇〇〇	八四、〇〇〇
五十一年度	〃	〃	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
五十二年度	〃	〃	七八八、五六五	七八八、五六五

計

七九八、五五五

三八、八五六五

三八、八五六五

七九八、五五五

逋信省所管

10

年度	既定年割額	繰延額	繰戻額	改定年割額
四十二年度	三五四、三〇七	一、一九三、〇五七	〇	二、三五五、〇〇〇
四十三年度	三五三、三一七	二、一七三、一一七	〇	一、三六〇、〇〇〇
四十四年度	三五〇、〇〇〇	一、七三三、〇〇〇	〇	一、七七七、〇〇〇
四十五年度	四〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	〇	二、五〇〇、〇〇〇
四十六年度	〇	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
四十七年度	〇	〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
四十八年度	〇	〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇
四十九年度	〇	〇	一、六二二、〇〇〇	一、六二二、〇〇〇
五十年度	〇	〇	一、四七〇、〇〇〇	一、四七〇、〇〇〇
五十一年度	〇	〇	一、三〇六、一七四	一、三〇六、一七四
計	一、四五六、一七四	六、九六六、一七四	六、五九六、一七四	一、四五六、一七四



明治四十一年度ニ於ケル繰延額使用年割表

	繰延額	使 用 年 度									
		四十一年度	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	四十七年	四十八年	四十九年	五十年
外務省所管	八〇〇〇〇	八〇〇〇〇									
内務省所管	一五〇〇〇〇										
河川改良費	一〇〇〇〇〇										
北海道拓殖費	一〇〇〇〇〇										
道路橋樑排水費	一〇〇〇〇〇										
大藏省所管	一五〇〇〇〇	八三三三	八三三三								
横濱港外堤修築費	八三三三	八三三三									
横濱税関海面埋立											
及陸上設備費											
神戸税関海陸運輸											
聯絡設備費	一五〇〇〇〇										
煙草製造専賣制											
業建設費											
陸軍省所管	一五〇〇〇〇										
營繕及度額費	一五〇〇〇〇										

造船獎勵費	4,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000	4,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
營繕費	4,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	7,000,000	4,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
合計	8,000,000	6,000,000	2,000,000	2,000,000	14,000,000	8,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
臨時軍事費	9,000,000	0	0	0	9,000,000	0	0	0	0
差引	1,000,000	9,000,000	1,000,000	1,000,000	2,000,000	8,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

備考

陸海軍兩省所管繰延額、四十年度より繰越タル金額ト区分シ難キ為メ、四十年度繰延額ノミニ對シ使用年度ヲ揚クルヲ得サルモノニ依リ茲ニ其使用年度ヲ揚ケス隨テ明治四十年度以降歲入歳出概計表ニ揚クル四十年度繰延額使用年度金額ヲ併合セサルモノアリ

大甲市三

大正元年九月六日 内閣書記官

内閣總理大臣 望 内閣書記官長 小

外務大臣 原 大藏大臣 板 海軍大臣 東 文部大臣 高 逓信大臣 若

内務大臣 花 陸軍大臣 座 司法大臣 正 農商務大臣 高

大藏大臣請議江西鐵道借款

關スル件

右決議ニ供ス

三